

# 死亡労働災害撲滅をめざして

「なくそう死亡災害！運動ちば 2017」

千葉県内における死亡災害は、昭和 44 年の 205 名をピークに減少傾向を示しており、昭和 54 年には 100 名を下回り、平成 23 年には 33 名まで減少した。しかしながら、平成 24 年以降増減を繰り返し、平成 28 年は 36 名（平成 29 年 3 月 7 日現在）となった。第 12 次労働災害防止計画の最終年である平成 29 年は 1 月だけで 8 名と今世紀に入って最多の死亡者数となり、現在においてもなお 12 名と高水準で推移している。

千葉労働局及び県下労働災害防止団体等はこの事態を打開するため、関係各機関と一致協力して平成 29 年 3 月 1 日から平成 30 年 1 月 15 日までの間「なくそう死亡災害！運動ちば 2017」を展開することとした。

もとより死亡災害はあってはならないものであり、いかなる経済環境の中でも、労働者のいのちと健康を守ることはすべてのものに優先すべきことを認識しなければならない。

死亡災害をなくすためには、死亡労働災害撲滅という経営トップの強い決意のもとで労働災害防止活動に取り組み、経営者、労働者双方が安全衛生意識、危険感受性を高めることが必要である。

さらに、自らの事業場のみならず、取引先等関係事業者に対し、労働災害防止を呼びかけることにより、安全を最優先する気運が醸成され、死亡災害の減少が期待される。

本日、「なくそう死亡災害！運動ちば 2017」対策会議を開催するに当たり、すべての労働者が安全で健康な職場環境を確保できるよう決意する。

平成 29 年 3 月 23 日

千葉労働局長 福澤 義行